

やまと文化の森だより

企画展のご案内

併設好評開催中!!（最終日は午後3時までの展示です）

2月の企画展 2/3（火）▶2/23（月・祝）

○トリプル企画展

・明光保育園作品展〜うみ だいすき〜

こどもたちの手の跡が残る可愛い作品を展示します。

・さんサンなかま作品展

町内の小中学校の特別支援学級に通う生徒・児童の作品を展示します。

・山風華作品展

山都町下名連石の就労支援施設「山風華」の利用者の作品を展示します。

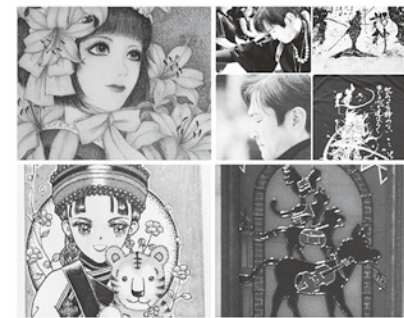
3月の企画展 3/1（日）▶3/22（日）

○カルテット展覧会

山都町内外の書道家や作家、イラストレーターの作品の合同展示です。

○プティマルシェ 2/22（日）・3/15（日）

問合 山都町下市16番地 ☎72－9400 開館時間 午前9時～午後5時 入館無料
休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は次の平日）、年末年始など



山の都移住すまいるセンター通信2月号

移住体験ツアーを開催しました!

「山の都移住すまいるセンター」では、山都町への移住を検討している方を対象とした一泊二日の移住体験ツアーを、3月15日まで実施しています。ツアーでは、地域暮らしを体験できる機会をご提供しています。

12月13日～14日に福岡県から2組のご家族が山都町の移住体験ツアーに参加されました。今回のご参加は、生協のカatalogに同封されていた「オーガニックスマイル(有機の学校)」のチラシをきっかけに、山都町へ関心をお持ちいただいたことが始まりでした。

ツアー初日には、「オーガニックスマイル」の鳥越様より、有機の学校の取り組みや山都町の農業、そして有機農業による地域活性化や経営についてのお話を伺いました。また、参加された皆様はピーマンの種取りや人参・里芋の収穫体験にも取り組み「農業に携わりたい」という思いがさらに強まった様子でした。

続いて「山都町の地域や歴史について知りたい」というご要望を受け、男成神社や清和文楽、馬見原商店街などを訪問。地域を巡る中で、町の文化や人々の生活の雰囲気を感じていただき、山都町の魅力を深く体感していただきました。

宿泊先となった「コンパス・ラボ山都」では、オーナーの菅様を交えて夕食を楽しみながら、町の暮らしや魅力についての話題で盛り上がりました。参加されたみなさんの「食」への関心が高く、特に新鮮で安全な食材に関するお話で、お話が弾み交流が深まりました。



問合 山の都創造課 ☎72－1158

わたしたちの人権

誰もが人間として生きていくうえで
侵すことのできない当然の権利
これが『人権』です

人権作文の紹介（令和七年度）

今月は、矢部小学校 四年 伴絃史
さんの作文をご紹介します。

自分をふりかえろう

人権学習で「石神さんの話」を学習しました。ぼくがフィールドワークに行って学んだことは、差別の心はだれにでもあるということと、話を聞いて

終わりではなく、一人一人が自分のこととして話し合い、考えることです。

ぼくは、自分をふり返ると差別になることをしたことがありました。それは、ドッチボールでチーム分けする時に、この人は弱いと思って、「そっちのチームに入って。」と言ったことです。強さを平等にしようと思って言いました

が、それは差別だと思いました。差別をされたこともありました。他の人にはやさしく話しかけるのに、ぼくには「おい。」と話しかけられたり、ぼくが注意したら聞かなかったりしました。たたかれたり、あだ名をつけられたりすることもありまし

後、何がイヤだったか、どうしてほしかを伝え、クラスで話し合いました。そして今は、そんなことはなくなりました。

これからぼくは、何かあったら先生や友達、親に相談できるようにしたいです。そして何かあっても話し合いで解決できるようにしたいです。元気で明るいクラスでこれからも続いてほしいです。

ぼくは、黄色いリボンに「みんな笑顔で、平等に接する。」と書きました。学年、性別に関係なく、だれにでも温かく接したいです。このことは今のほくだけに大事なことでなくて、今からのぼくにずっと大事なことだと思うので大切にしていきたいです。

人権を考える町民の集い

十二月五日、午後六時十五分より、矢部保健福祉センター千寿苑において開催され、百十七名の参加がありました。

人権バンドイソジンズ（森山資典さ

ん猪俣浩介さん）をお招きして「伝えたい、この思い。」と題してご講演をいただきました。障がい者差別、水俣病問題、部落差別（同和問題）などの人権問題を語りと歌でメッセージを込めて講演（ご自身のことや家族のことを語り、歌うスタイル）、聞き手も自分事として重ね共感します。

講演内容の一部を紹介します。

講演の歌い出しは「ブルーハーツ」の「青空」でスタート。

歌詞の一部に「生まれた所や皮膚や目の色で、いったいこの僕の何がわかるというのだろう。運転手さんそのバスに僕も乗っけてくれないか。行き先ならどこでもいい。」（歌詞抜粋）

僕（森山さん）の高校の時の気持ちと一緒にだった。

小学校の頃、差別はもう無くなったと思っていた。しかし、高校生になった時、同級生が差別を知ることを知る。就職差別があることを知る。身元調査により差別されることを知る。近所のお兄ちゃんが、結婚差別をされ、ムラから出ていく。

そんな状況の中から逃げだすことばかりを考えていた。しかし、逃げ出さずにいられたのは教育や運動のおかげ、人との出会いや人の情けの中で、人は信じられるもの。差別はなくせるものとはっきりと自覚し、仲間の大切さを知ることができました。



自分の人権を守り
他人の人権を守る
責任ある行動を



©2010 熊本県くまモン